

緑ゆたかな、歴史と街道のまち

本宿学区

MOTOJUKU



ぼく・わたしの本宿未来・夢プラン

自然と環境、交通と通信、歴史と文化、福祉と共生の四つのテーマに沿って、本宿小学校の子どもたちが未来の学区を絵で表現しました。2016年2月に選考した作品を紹介します。



空飛ぶランドセルと靴で登下校
(1年 小早川果虹)



本宿駅から月の駅へ
(4年 服部光希)



本宿小学校には昭和55年から回り続けている水車があります。



ササユリ畑で音楽集会
(3年 平野こころ)



外国の友達も法蔵寺の書写体験
(4年 古田るり)



本宿神社の巫女の舞はいつまでも
(4年 倉橋琴那)



ホタルやサギが飛び交う鉢地川
(4年 山下莉子)



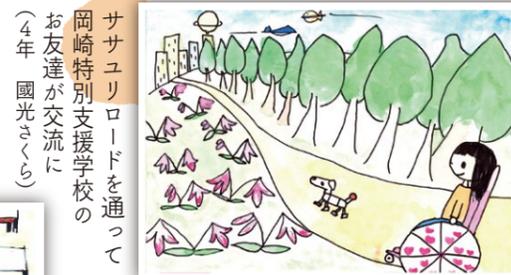
坂の多い緑町や棚田にもスマホでバスが自宅まで
(6年 小山春花)



ぼくたちを守ってくれた人たちが今度は小学生が守るんだ
(4年 松下正太郎)



本宿小の給食は、外国の人も大人も一緒に食べることができるとよ
(5年 福田七恋)



ササユリロードを通過して岡崎特別支援学校のお友達が交流に
(4年 國光さくら)



お年寄りも障がいのある方もたくさん参加する学区合同運動会
(4年 本多夢姫)



編集後記

法蔵寺で学問に励む家康や旧街道を行くちょん髷姿の旅人達。当時の本宿にタイムスリップ。

〔作成委員会〕 太田武彦/香村迪郎/小早川好弘/田口春和/河井良夫/渋谷弘美/田島広嗣/尾崎貴司/野村直子/本多順子/松本正/富田寛/稲場泰雄/平松健二 地図作成：内山清彦

〔参考資料〕 本宿小史/大三川志/もとじゅく子ども風土記 〔表紙写真〕 本宿学区の航空写真(2016年5月撮影)

本宿学区のなりたち



1 学区南北の中間地点に建てられた小学校。冬は陽が当たらず極寒で、父兄で藁囲いを設置して寒さをしのいだ

2 旧本宿村役場。平成20年(2008)から公共下水道工事に伴い、解体を始める。近代化歴史遺産として復原予定

3 本宿と蒲郡を結ぶ全長468mの鉢地板トンネル

4 八角形の屋根がモダンな本宿駅。当時、国際観光地と称された蒲郡へ、乗客を誘致するための玄関駅として賑わった

小学校・学区民

合同運動会

毎年5月の恒例イベント。小学生は徒競走、演技、リレー競技で練習の成果を發揮し、学区民は玉入れ、綱引き、各種リレー等の競技で大いに盛り上がります。



綱引き



組み立て体操



学区民全員が参加する本宿音頭

- 一八八九年 ■ 明治22
- 一九〇九年 ■ 明治42
- 一九一六年 ■ 大正5
- 一九一九年 ■ 大正8
- 一九二六年 ■ 大正15
- 一九二八年 ■ 昭和3
- 一九三三年 ■ 昭和8
- 一九三四年 ■ 昭和9
- 一九三五年 ■ 昭和10
- 一九四二年 ■ 昭和17
- 一九四七年 ■ 昭和22
- 一九五一年 ■ 昭和26
- 一九五四年 ■ 昭和29
- 一九五五年 ■ 昭和30

児童通学見守り隊



黄色いリボンでパトロール会、老人クラブなどの9団体が子どもたちを見守っている

カンナの会の子育て支援



親子で参加できるふれあいの場を毎月1回開催

地域活動

本宿学区では子どもからお年寄りまで元気に過ごせる様々な活動をしています。

ふれあい健康クラブ



健康推進員と女性ボランティア「れんげ草の会」の協力を得て、毎月2回、レクリエーションや創作活動をしている

明るく元気に

本宿学区の歴史・文化・地域活動

老人会



グランドゴルフや旅行を楽しんでいる

芸能祭



毎年11月下旬に開催。趣味やサークル活動の成果を発表している

＜享和2年(1802)に作製された本宿村の分間絵図。本宿駅前栄地下道に複製が展示されています

DATA

□人	6,666人
□男性	3,335人
□女性	3,331人
□世帯数	2,656世帯
□面積	14.47km ²

[2016年7月1日現在]

本宿学区のなりたち

奈良時代、三河には三つの宿驛(鳥捕・山綱・渡津)が置かれまし。本宿学区は山綱の驛家郷に属し、驛家は東海中学校付近にあったと推定されています。本宿にこの驛家があったことから「元の宿」、後に「本宿」と呼ばれるようになりました。平安時代の終わりから鎌倉、室町時代にかけて、岡崎市東部一帯は「山中郷」と呼ばれ、本宿はその一部でした。室町時代には足利將軍家の御料所が置かれ、重臣の伊勢氏が支配しました。やがて松平氏が進出し、織田・今川に挟まれて、家康公の支配確立まで戦乱が続きました。江戸時代には、本宿・鉢地板は法蔵寺領と旗本柴田氏(勝家の子孫)の知行地で、柴田陣屋跡地(現、富田病院敷地)に代官宅の一部が保存されています。大幡・上衣文は大岡越前守所領の西大平藩、鶯巣は磐城平藩の領地でした。参勤交代で行き来する大名旗本は法蔵寺で下馬して参拝するのが習わしで、本宿は門前町として発展しました。旧東海道沿いには一里塚や古い格子戸の家が点在し、昔の面影を偲ばせています。

盆踊り

夏の夜を楽しむ
お盆には寺の境内や広場で盆踊り大会が開かれ、大変賑やかです。上衣文町では盆踊りの前に初盆供養のための御霊祭りをを行います。



上衣文町の子ども太鼓



大幡町の盆踊り

鉢地町の奇祭

帝鎮講

帝鎮講は農作業の安全と五穀豊穡を感謝、祈願する祭りです。当日は男だけでお供え物を担ぎ、「狐も狸も帝鎮講」と唱えながら「荒神の森」と呼ばれる山に入ります。御霊木の杉のまわりにしめ縄を張り巡らせ、御幣や赤飯を供えて祈ります。そこで、おさぎの握り飯をみんなで頂き、残り飯は山の生き物のために置いてきます。鉢地町に昔から伝わる神事として、毎年12月中旬の日曜日に行っています。



供物を運ぶのは男子の役割



荒神の森の神様に御幣や赤飯を供える

法蔵寺

松平家と縁の深い

大宝元年(701)、行基が開山したと伝わる古刹。当初は法相宗出生寺と呼ばれていましたが、至徳2年(1385)、京都円福寺の龍藝が浄土宗に改宗、法蔵寺と名も改めました。三河に勢力を広めた松平家の信仰深く、天下人となった家康は竹千代と呼ばれていた幼少期に、ここで叔父の教翁住職に手習いを教わっています。父廣忠を納骨した松平家御廟、元康甲冑姿像などがあり、家康の岡崎での足跡を辿ることができます。



本堂の西側には竹千代のお手植えと伝わる山桜がある。地元では「家康桜」の愛称で親しまれている。岡崎市指定天然記念物
行基が植えたと伝わるイヌマキ。岡崎市指定天然記念物



東照宮
元康(後の徳川家康)が岡崎城に戻り(1560-1570)三河平定の戦いの頃、教翁住職に開運戦勝祈願を命じ、初陣勝利の甲冑姿像を彫刻させて祈願した。後に旗本の「鏡講」が修復し、東照宮となる

松平家御廟
織田家の人質となった竹千代は、人質交換で駿府に向かう前に急死した父廣忠の遺骨を分骨して納めた。三方ヶ原の戦いで家康の身代わりとなった夏目吉信や鳥居忠広ら家臣の墓もある



六角堂
六道に苦しむ衆生を救う靈験あらたかな出生観音を祀るため、空海が堂を造立した



近藤勇首塚
新撰組と親交のあった京都の誓願寺の住職が法蔵寺に移り、隊士の懇願で埋葬したと伝わる



東町の梵天担ぎ



中町の青年のやぐらみこし



緑町の子どもみこし



手筒花火の奉納



栄町の山車巡行



西町の手踊り



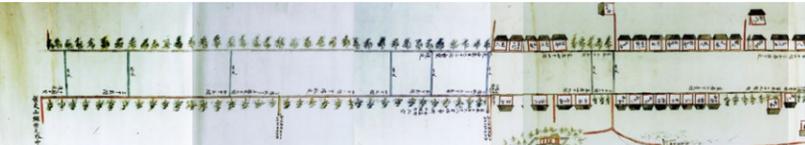
棚田町の行列

夏の風物詩 祇園祭

江戸時代、本宿村で疫病が流行して多数の人が亡くなりましたが、立場(東町)の住民は免れました。これは天王神のおかげに違いはないと、疫病除けの祭りが始まりました。本宿町の栄町、西町、中町、東町、緑町、棚田町の山車が巡行し、山車の上で太鼓や笛を奏でます。現在は7月最終日曜日に行われています。

交通の要衝、本宿

本宿は古代から現代まで交通の要衝として栄えました。昭和8年には難所といわれた鉢地坂トンネルが完成し、本宿駅から蒲郡までバスが走りました。平成28年には新東名高速道路が開通し、蒲郡―本宿―額田を結ぶ国道473号は岡崎東ICへのアクセス道路になっています。
・飛鳥奈良時代の古代官道
・鎌倉〜戦国時代の鎌倉街道
・江戸時代から昭和26年まで使われた旧東海道
・国道1号・東名高速道路
・国道473号・名古屋鉄道(本宿駅)
本宿駅を拠点に、かつての古道に思いを馳せながらのウォーキングも楽しめます。これからの交通アクセスを活かしたまちづくりを目指します。



- 一九六九年 ■ 昭和44
- 一九七三年 ■ 昭和48
- 一九八四年 ■ 昭和59
- 一九九二年 ■ 平成4
- 一九九四年 ■ 平成6
- 二〇〇三年 ■ 平成15
- 二〇一三年 ■ 平成25
- 二〇一五年 ■ 平成27
- 二〇一六年 ■ 平成28

- 東名高速道路が静岡ICから岡崎ICまで2月に部分開通、同年5月に全線開通：5
- グリーンランドの造成工事第一期完成、入居開始
- 県営本宿住宅は翌年完成
- 第1回本宿小学校・学区民運動会が開催
- 本宿学区市民ホームが開館
- 本宿駅が高架化
- 国道1号拡幅改良工事完了
- 上衣文・大幡・舞木・池金の丘陵地に岡崎東部工業団地造成(平成18年アイン・エイ・ダブリュ操業開始)
- 市街化区域内の下水道整備計画工事完了、供用開始
- 国道473号バイパス完成、開通：6
- 新東名高速道路岡崎東IC開通



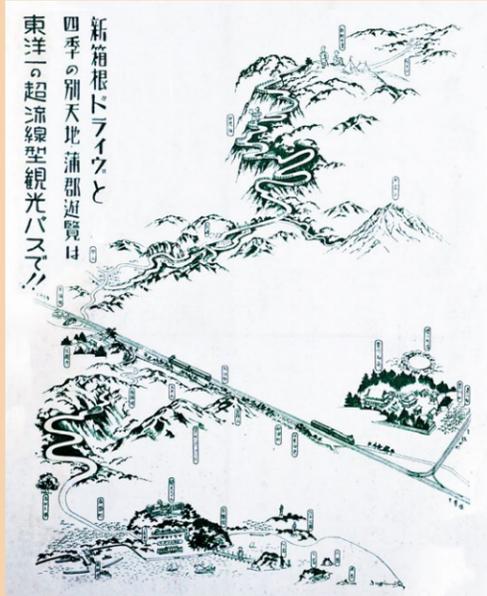
4 国道473号バイパス開通を祝ってバイパスウォーキングを実施。1500人が参加した



5 東名高速道路が開通した頃の本宿



緑色の濃淡ツートンカラーで、「イモムシ」と呼ばれた特急電車



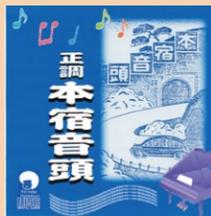
観光マップ「絶勝 新箱根ドライブと蒲郡 御案内」に描かれた鳥瞰図。当時、本宿からは「新箱根」越えのほか、「新軽井沢(作手)」へのバスも発着していた

COLUMN 観光の起点、本宿駅

三河湾に面した蒲郡は豊川稲荷と並ぶ東三河の2大観光地のひとつでした。愛知電気鉄道の起点駅、神宮前駅から約1時間で本宿駅に到着し、蒲郡までバスで約40分。本宿から鉢地坂トンネルを抜け、曲がりくねった山道走る「新箱根ドライブ」は、流線型の観光バス「レオ」号が大人気の車内では本宿音頭の歌が流れ、女性の車掌がガイドも行いました。



▷展望観光バスレオ号。屋根はオープン式



△復刻した本宿音頭のCD

♪ハア〜いきな本宿サラリトナ(ヨイショ) いきな本宿流線型よ ちよいとドライブ新箱根(ソレ) ヨイヨイヨイヤサノ サラリトナ♪

